

# 「自閉症の理解と具体的支援」

～“文化の日”に、自閉症の文化を学ぼう～



**講師 重松 孝治 先生**（川崎医療短期大学 医療保育科 講師  
TEACCH® 上級コンサルタント）

大阪教育大学教育学部卒。同大学院修了。1997～2000年大阪自閉症支援センタースタッフ。  
2001年～大阪府立藤井寺養護学校。2007年～川崎医療福祉大学医療福祉学科 講師、  
エクステンションセンターTEACCH部担当教員。2011年～同 特任講師。2014年～同職  
岡山をはじめ、全国各地で自閉症児・者支援のための講座、講演会の講師を務められる。

**日 時** : 平成30年11月3日(土・祝) 14:00 ～ 17:00

**場 所** : 岡山ふれあいセンター 大ホール (岡山市中区桑野 715-2)

「自閉症を持つ人は、劣っているのではなく、ただ違っているだけ」そう言われますが、彼らが今の社会で生きていき辛いのも事実です。それは彼らが社会の中でマイノリティだからかもしれません。現在は自閉スペクトラム症を持つ人は、人口の5%を超えるという地域もあると報告されていますが(2017年:本田秀夫先生)、それでもやはり学校や地域の中では、圧倒的に少数派なのは違いありません。

コミュニケーションや社会性、そして想像力に弱さがある自閉症の人たちです。そんな彼らが生まれ育った地域の中で、生涯にわたり自分らしく暮らしていくためには、“彼らとは違っている”多数派の私たちの側からのコミュニケーション、そして理解と支援が欠かせないものだと思います。

そこで今回は「文化の日 記念講演会」と銘打ち、川崎医療短期大学の重松孝治先生をお招きして、違った文化を持つ自閉症の人たちの特性を理解したうえでの具体的な支援の方法などについてのお話させていただきたいと思っています。故 佐々木正美先生は、自閉症を障害として克服し治療すべきものとするのではなく、「自閉症の文化」としてとらえ、彼らの文化を理解し、共存するべきと言われていました。

このセミナーが、自閉症の人たちの特性や文化を私たちが理解し、また彼らに周りの社会のルール・文化を理解してもらうためにはどんな支援があればいいのか、相互理解のための架け橋となることを願って企画いたしました。

重松先生は岡山に来られて、すでに10年以上になりますが、その軽妙でわかりやすい語り口と、ツボを押さえたアドバイスで、岡山の自閉症児・者やその家族のために、いつも大きな力を貸していただいています。

今回も、保護者の方、学校・保育関係の方、施設関係の方、医療や行政、就労関係の方々など、いつも子どもたちと関わっている大勢のみなさまのご参加をお待ちしています。

**主催 NPO法人岡山県自閉症児を育てる会**

後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・

〒709-0826 岡山県赤磐市和田 194-1

倉敷市教育委員会・山陽新聞社 (予定)

Tel. : 086-955-6758

Fax. : 086-955-6748

メール : acz60070@syd.odn.ne.jp

